

## 第3回 カースト制度

### 1. カースト制度の定義

カーストという英語にあたるインドの言葉は、実は二つある。その一つはヴァルナとよばれるもので、もともとはサンスクリット語で「色」をあらわす語であった。司祭として最高位の身分をもつブラーマン、王族・戦士としてこれに次ぐ身分であるクシャトリア、商業などに従事する第3の身分をもつヴァイシャ、そしてこれら上位の身分をもつ人々に仕える階層のシュードラ、という四つの階層に人々を分かち制度である。

これに対して、ジャーティ(「生まれ」を意味する)とよばれるのは、インド全体では2,000とも3,000ともいわれる、細分化された集団で、それらの多くは、特定の地域、特定の職業に結びついている。個々のジャーティは、一応四つのヴァルナのいずれか(あるいは、第4のヴァルナの下に位置づけられる、「第5の」ヴァルナというべき、アウト・カースト)に属するとされる。掃除夫のバンギはこのアウト・カーストに属する。南アジアで、ある人がどのカーストに属するかという場合に問題になるのは、一般にはジャーティである。

このカースト制度を簡単に定義付けると、「カーストは自治機能をもつ排他的な内婚集団である。カーストの成員は集団(ジャーティ)内部でのみ通婚を行い、カースト固有の職業を世襲する。各カーストは社会的・経済的な相互依存関係で結ばれているとともに、上下貴賤の儀礼的序列が存在し、ヒンドゥー教において極度に発達した浄・不浄の観念と業・輪廻の観念とがカースト制度を思想的に支えている」といえる。

### 2. カースト内部の構造

(1)結婚：同一カースト(ジャーティ)内部での結婚が理想とされているが、異カースト間で①許される結婚として、アヌローマ(順毛婚：男性が上位のカースト)、②許されない結婚として、プラティローマ(逆毛婚)がある。カースト内部で結婚できない集団には、①ザ・ピンダ(近い親族)と②ザ・ゴトラ(特定の祖先を共通に持つ集団)がある。

(2)食事：他のカースト、特に下位カーストの者から水や食事を受けることが禁じられている。

(3)職業：カーストは固有の職業と結ばれ、成員はその職業を世襲するが、しかし、伝統的な経済関係が崩れ始めると、カーストと職業の結合も緩くなってきた。

(4)自治機能：独自の宗教的、社会的慣行に違反した仲間に対しては、長老会議(パンチャヤット)や、カースト構成員の集会(サバー)の決定によって制裁される。

### 3. カースト相互の関係

(1)分業関係：伝統的なインド社会は、排他的カーストが経済的な相互依存関係、すなわち分業関係によって有機的に結合されたものであった(ジャジマニシステム)。

(2)上下関係：バラモンを最上位とし不可触民を最下位とする儀礼的な上下関係で結ばれ

ている。その中であって、社会的地位を上昇させようと、カーストの構成員が一丸となって浄性の高いとみなされる慣行（菜食、禁酒、寡婦再婚禁止）を採用しようとする。こうした動きをサンスクリタイゼーションと呼んでいる。

#### 4. 北インド・ロダウラ村のカースト構成

ロダウラ村の中にはいると、戸数 120 戸でバラモンが 80 戸と優勢を占め集村形態をとる中央部に固まって居住し、その周辺にナーイ（床屋）、バライ（大工）、チャマール（皮革業）、ムラオ（農業）およびイスラム教徒の仕立屋が少々散在して生活している。

この内、床屋の R さん（60 歳）の主業はジャジマンニ関係による床屋である。自村を含めて近隣 6 カ村に計 13 軒のジャ自慢（顧客）がいる。アヒール（ミルク搾り）、カヤスタ（書記）からは収穫時の年 2 回に小麦をはじめとする雑穀を、バラモンからは雑穀に加え衣類を月 1 回の散髪の交換として受取り、バライからはベットなどの木製品を、ドビー（洗濯屋）には洗濯をしてもらっている。床屋はジャジマンニに対して散髪・身の回りの世話だけをするのではない。結婚式、葬式その他さまざまな行事に対しての情報伝達、手伝いを引き受ける。R さんは 91 年 3 月 28 日に、隣村のバラモンの娘さんの結婚に際して、ラクナウに住む相手側に、お金、布、洋服、サリー、食器皿などを運んだ。相手側から 20 ルピーをもらったが、ジャジマンニはわずか 1 ルピーしかくれなかったと嘆いていた。両方合わせて丁度バスの往復運賃であり、臨時収入はゼロである。また葬式に際しても床屋は重要な役割を演じていたことは、後述するとおりである。



写真5 ロダウラ村（集落の入り口に R さんら数件の床屋が住んでいる）